

(84)

十一月二十六日 野村栗栖西大使意見具申

S 1.1.3.1-1

1806

388

REEL No. A-0293

アジア歴史資料センター

昭和十六年十一月二十六日後華府發
十一月二十七日前本省著
機

東郷外務大臣

板秘 館長符號

第一一八〇號

野村來栖ヨリ

累次往電ノ通乙案全部ヲ容認セシムル見込殆ント無ク一方時日ハ切迫此ノ儘ニテハ遺憾乍ラ交渉打切ノ外ナク微力慚愧ニ堪ヘス此ノ際唯一ノ打開策トシテハ甚タ恐懼ニ堪ヘサルモ先「ロ」大統領ヨリ 至尊ニ對シ奉リ太平洋平和維持ヲ目的トスル日米兩國協力ノ希望ヲ電信セシメ一御内意ヲ俟テ極力交渉ス之ニ對シ御親電ヲ仰キ奉リ以テ空氣ヲ一新スルト同時ニ今少シク時機ノ御猶豫ヲ得、英米側カ蘭印保護占領ニ出テ來タル可能性ヲモ考慮シ我方ヨリ先手ヲ打チ佛印、蘭印、「タイ」國ヲ包含スル中立國設立一本

外務省

389-

S 1.1.3.1-1 1807

389-

年九月「ロ」大統領カ佛印「タイ」國中立ヲ提議セルハ御承知ノ通ナリ一々提議スルコト可然ト思考ス
今回交渉ノ決裂カ必スシモ日米開戦ヲ意味セサルヤノ觀測存スヘキモ決裂後ハ前途ノ如ク英米側ノ蘭印進駐モ豫想セラレ結局我方ノ攻撃ニ依ル對英米衝突不可避ナルヘク右ニ對シ獨逸カ條約第三條ノ義務發動ヲ肯スルヤハ頗ル疑問ニシテ且日支事變ノ解決ハ少クトモ今次世界戰ノ終局迄持テ越ズノ外ナキニ至ルヘシ
本電ハ或ハ本使トシテ最後ノ意見具申タルヘキニ付少クトモ木戸内大臣迄御示シノ上至急折返ヘン何分ノ御回電切望ス(了)

外務省

S 1.1.3.1-1 1808